

續繪粟毛五編

下

13 遠へ
1164
33



特

1164
33

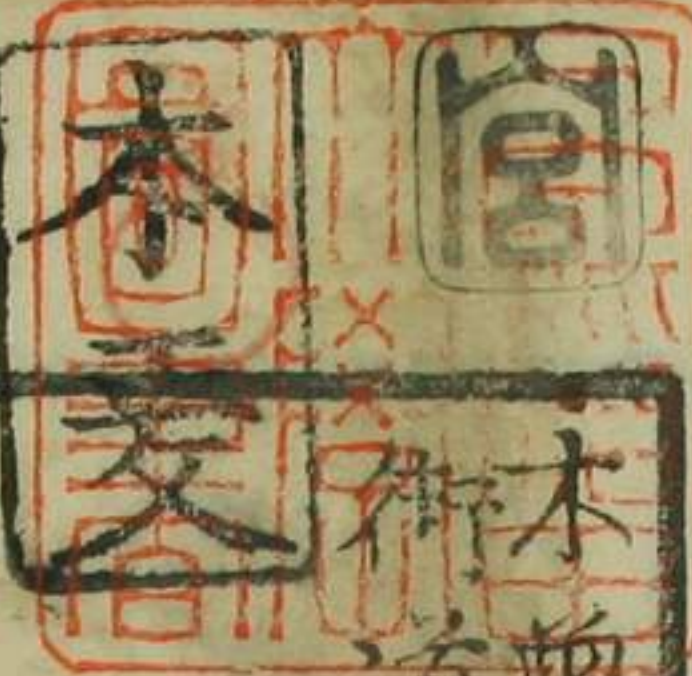
空之坂

本曾 續藤栗毛五編

東都 十返舎一九著

下巻

三



海 信 蔵

野 盛 書

あつた伏見の駈を立出。桶繩をとりあふは
野盛書。都におくるふ。の首次をいふ。きくありて教十人
の力におよばず。はあお桶の中。埋めたるは。くは
名付しと。音傳ありし。成りて。

桶繩手今もそむ名は朽ざらるま

塩漬おせー 鬼お首も

かくて平岩 可見川 流るる所 津森の 宿おはき
うらなれ。人々のうらなれ。本家のナカ。おけをーや ナアア人。
かろみはく 暮るダチアへ。コトーあや暮るさへかろみつ
あゆナアアヨウ。ごんあいのうろあんさるものやうごん。
あふぞこん。お家の 休んでおごう せんませ。
節入もそ 焚く。石磨とこらぶの お汁もこさるに。
めあつて ぶあつておごう せんませ。トはあつてうら。お十

お部ひとら。あとお。お部。ハイ 旦那さななつ。此報 謝し一文くれ
ありさるおありて。さるーやん。お部の 後河の
おんでおごるやん。お部の あらや又 長門くごらう。ソリヤア
おせて おきておの のいもあう。かうせんお長門ごらう。
おホニ 福祿壽といふあつるごらう。仕合せのり
んおごらう。おせまういもさるる。おおおおお
ハイ。けろぐいあつるおはして。おおおお 狸屋が
おごるやん。おつてくまらうーやん。コトあやアハ。後河



の黒川とらふ山家めんどろやア。去年四代改つきの
お役人さあが。どしどしこの村の産屋どのにまわら
ちかろこ時。おあまがけふるおまらせとらいつ
あやうこが。あふハイ。そのもあうや。おんのさんどん
ぶらと。うんちがぶらうらあうるあめんどんで。かま
つら。おはつうアしておると。お役人さあが。エレキヤア
をやくもあまのせとらいつあやう。そこでハイ。産屋
どのもあまらして。せまうとがあうらう。お寺さあま
人

かは出してらうてまいたら。お寺さあまのあうらど
コリヤハイ。てうつこや。おの政と文書にかくら。あんで
もあいのあうる人をまらせと。うんちどんぶらと。それ
うらハイ。村中がよりあうて。エレハイ。誰のあうるあがかん
産屋。おあま田のおんちのあうるが。あがのここやあう
が。コリヤハイ。さんとばらあうるだんて。様らひらうけりお
あいのどら。おあやうらまら。イヤおあがあのおん
あひどらであらむ。コリヤあまのあうらよ。よらうらとせ

ようござと お候きらめて。こゝをたてらまゝこめん
だんて。せまきつゝあゝ。まんごうお役人さあのかん
はん物るめんだんで。髪月代うきつきよひしてしまませうと。あふ
がふ。自判いざんふごごらつく。やうてゐる内うちも。エしく
ごめい。まあまうやくまらあつと。お役人さあが
せらあやる。そとでハイ。左屋さやどめが。てうけを今
かみよつておまほふ。あつまらうせませうと。
こまきまをエしくとそびらあやるめんだんて。こゝへハイ。

同まきととうちへえうて。左屋さやどめとほろんでお役人
さあのかんかんはん物て。ハイ。ちびらとれでござるとらあと。
お役人さあが。エしヤアとや。ためんぶ。ちびらから
まあまうまらせくとらあ坊うちのめあつとあつと。あ
めんだんて。コリヤハイ。あゝまをまらうとまんごうとあ
こゝら。こゝへあめいし。あつと。あつと。あつと。あつと
まらうとあつと。あつとあつと。あつとあつと。あつと
あやる。こゝへハイ。そんなあふをまらうとあつと。あつと

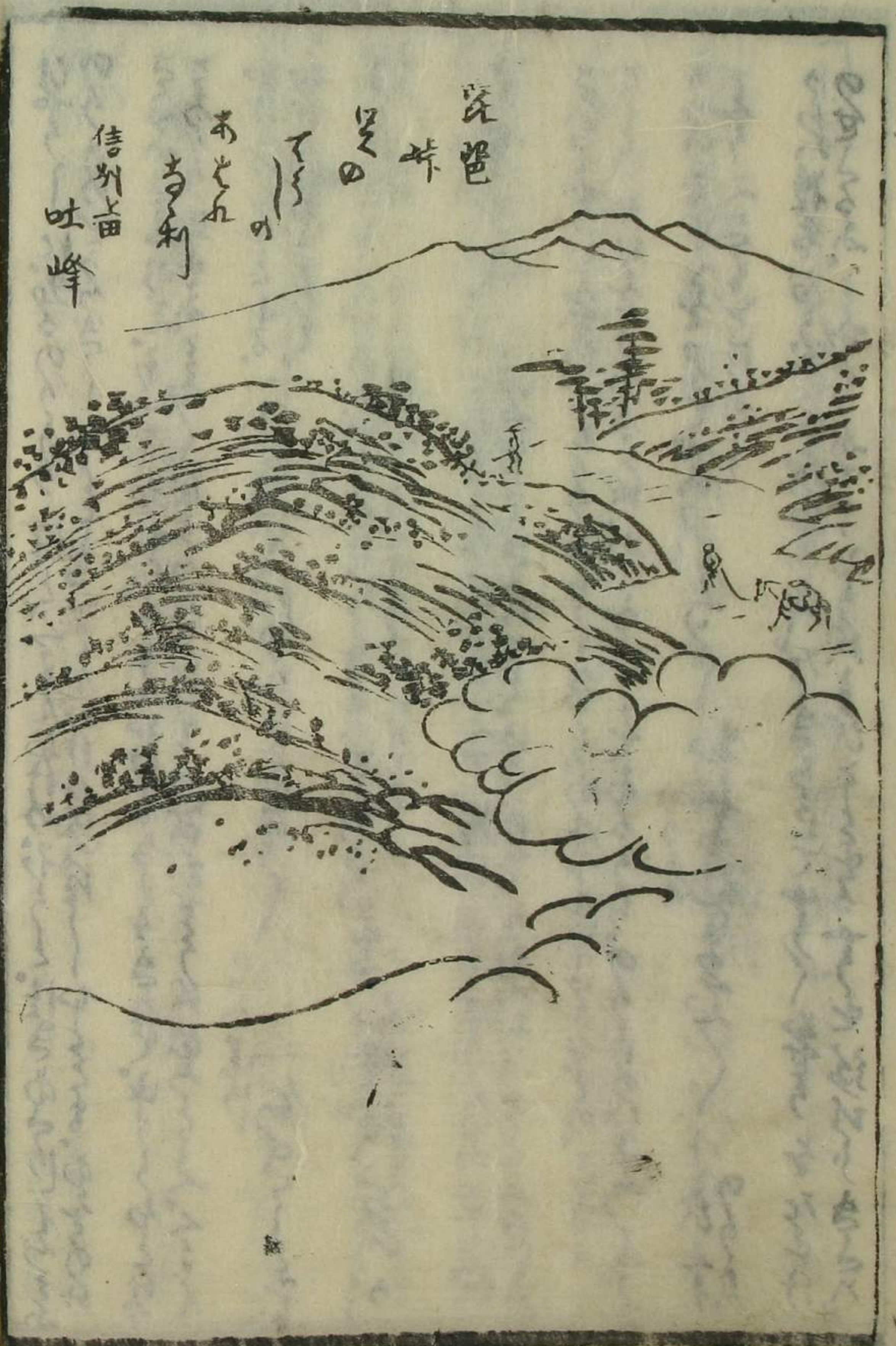




かま
小諸
侶山

まのり
まのり

川の
うしろ



信州
吐峰

まのり

あま

まのり

花
花

花

あつちゅうちゅうのついでにあり。あつちゅう
あつちゅうちゅうのついでにあり。

よそでれるうあんど佛とちうらびて

あつちゅうちゅうのついでにあり。

あつちゅうちゅうのついでにあり。

あつちゅうちゅうのついでにあり。

あつちゅうちゅうのついでにあり。

あつちゅうちゅうのついでにあり。

あつちゅうちゅうのついでにあり。

あつちゅうちゅうのついでにあり。

あつちゅうちゅうのついでにあり。

あつちゅうちゅうのついでにあり。

あつちゅうちゅうのついでにあり。

あつちゅうちゅうのついでにあり。

あつちゅうちゅうのついでにあり。

あつちゅうちゅうのついでにあり。

あつちゅうちゅうのついでにあり。

おらほりぢあるぞ。さうしんもお出ます。後「アア
さま入らしてうられお侍さ。女「あでらま。雨の定規
でひとくまよりぬれ。お宿指とあるるもどでけぬら
で。さうお出てもせむぢやうぢあらまのおま。さうし
とまお出るま。お侍ぬさあぬいくる。新法師
ともによろこひ。あめくゆ絶えさうかきさる。お
あといふーませませサカくお出ます。トはまふくらして
ゆき。おそえまの宿女「おはれ
りかけおけて

おらまのがまじいません。トはうらら。おまお「おやよ
おや。コレもさるぬ。お湯とらつておげさるせん。トおそえ
あひひ。あそりるとさうさくあもま。トおまひさるま。
お宿のりりりニ二人ぼれお。宿のあつぬとさある。
が押のひ六油の標よ。かくもへあるが。女「さうらぶら
はてがま。あつらひさん。おまはらうがむらうせらう。おまの
「さんあがりあされ。さうせん金庫の金おさるあが。
いし入紐でトわあつら。トはまふら。さうし金を
さるさ。女「おららの別標とさわら。アニウカアア

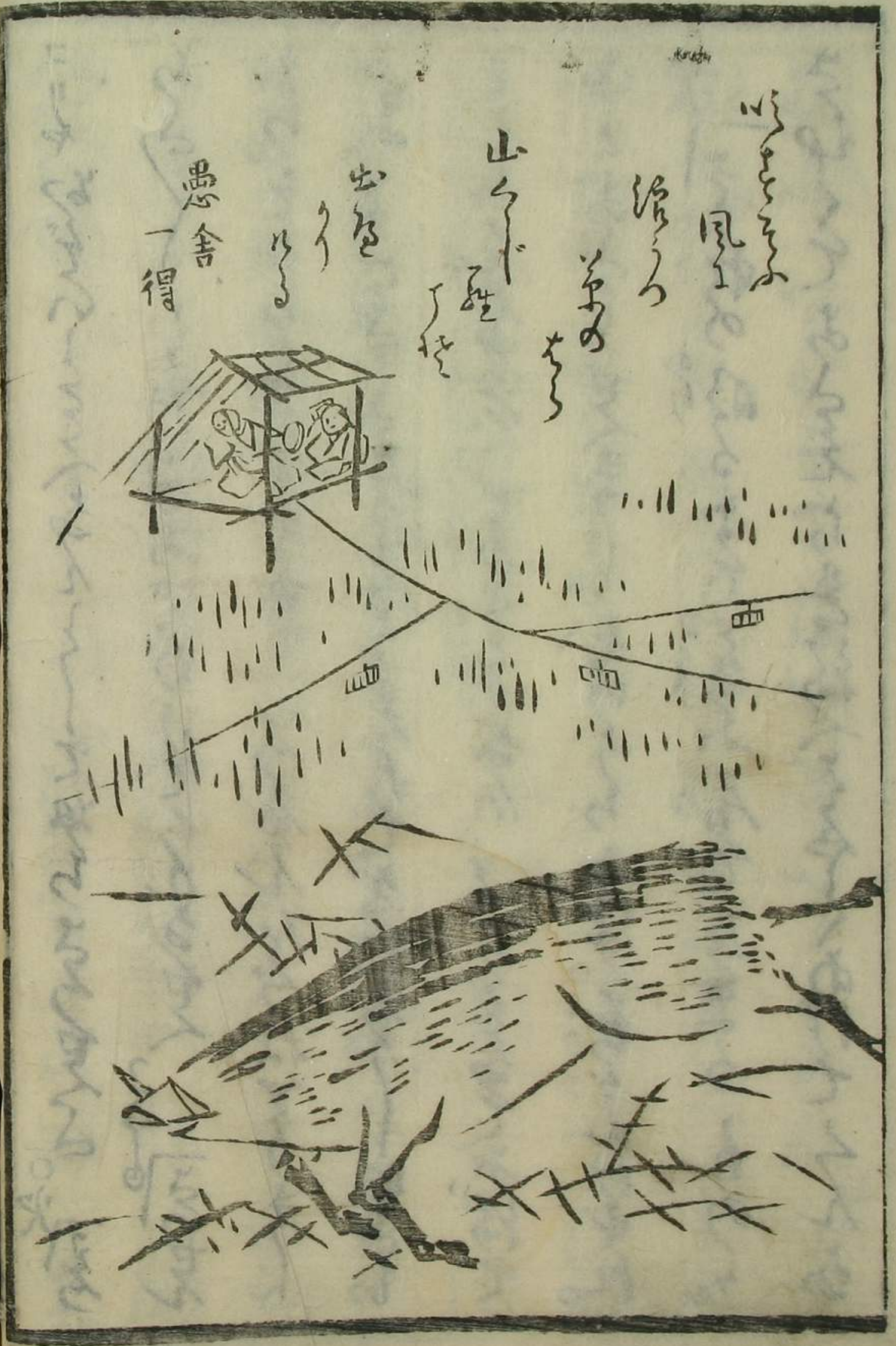


信妙
多
仙

あ
ふ
あ
あ
あ



あ
あ
あ
あ
あ



夏。ハタコまうつさのんでや。ライ番少祭虎六
 たらんら。らやうとあてらまら。ト大まなとあしとよら
 あり。旦那さるあんでや。猪でもおらまら。イヤ猪
 ーお教さるあ。イヤ猪ーやあ。お客が
 おららる口くさ。さゆうけ子とらてあてらね
 ーイヤさーさあ。よの法どの人うてや
 ーおまら。おなんせうてや。おの
 法あは。りけあのおさのやうでや。こーあ

そのまゝに遊あそんでおられる。何なんだか手てやねるさま

あんなに強つよい。おもしろく思おもう。おもしろく思おもう。おもしろく思おもう。

くと猪ぶちが若わいふのまじり。さくさく。おもしろく。おもしろく。

ふくがゆきの中で。さうさう。さうさう。さうさう。さうさう。さうさう。

は内うちをへいへい。さうさう。さうさう。さうさう。さうさう。さうさう。

かきとある。さうさう。さうさう。さうさう。さうさう。さうさう。

つらつら。さうさう。さうさう。さうさう。さうさう。さうさう。

んん。おもしろく。おもしろく。おもしろく。おもしろく。おもしろく。

おもしろく。おもしろく。おもしろく。おもしろく。おもしろく。

おもしろく。おもしろく。おもしろく。おもしろく。おもしろく。

おもしろく。おもしろく。おもしろく。おもしろく。おもしろく。

おもしろく。おもしろく。おもしろく。おもしろく。おもしろく。

大おほき。おもしろく。おもしろく。おもしろく。おもしろく。おもしろく。

おもしろく。おもしろく。おもしろく。おもしろく。おもしろく。

け大おほき。おもしろく。おもしろく。おもしろく。おもしろく。おもしろく。

おもしろく。おもしろく。おもしろく。おもしろく。おもしろく。

うちのぼりたるふ。少るふけせし。出まをわの
 ありて。ちやの。おれさ。備んでささる
 せまう。い。あさんぞあるう。まう
 何もささるませんであら。た。火も
 せんせませ。い。あさんぞあるう。まう
 まやうらうらとてうらとておても。それトやうたが
 福人。あくら紙也。もあ福人で。石とまをうらう

大久手
 十三峠

條風吹別俣
 子王一徑問
 驛多社在哉
 仙七塵

右是逆旅
 竹高



ひららふうでせりまゝと。トいふごととだんごをさるゑららし
 けてまゐらうとどんごときりらぐあひまゝサヂどんごらりりせ
 せしめあぶまをなすつくとくらげけき
 まし。海老 コリヤウマをさるゑららし
 さんけだんごららづし。パイひららきさづ
 せせらる。海老 コリヤウマのひららづし
 ともりて。くらあやあはるし。サハけだんごらら
 といえうらそむら。くさ。トゆりあひららきさづ
 かい。トあはるし。くらあやあはるし。さ
 せらる。

をパイ。あまら。海老 コリヤウマのひららづし。やし
 てり合十部又。こよらら。ササササヤサラ。コヤ
 せころふありあ。コリヤウマのひららづし。ま
 くり。海老 コリヤウマのひららづし。アリヤ
 指又づくまさん。わらまははひらららららら
 せよ。海老 コリヤウマのひららづし。あ
 後。ト立ゆらり十うえら
 とらひてせら。



本巻 續膝栗毛五編 下巻終

